

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XII 政治的大衆行動と平和運動

4 反戦闘争

八・一五反戦全国統一行動

愛国心や民間防衛を強調した「防衛白書」の閣議了承、閣僚の靖国神社参拝や「戦没者追悼の日」制定などの動きの中で、社会党、総評、中立労連、新産別、護憲連合の五団体は、三五回目の終戦記念日である八月一日に、「戦争犠牲者追悼、靖国神社公式参拝反対、反戦平和の誓いを固める八・一五中央集会」を東京・永田町の社会文化会館で開催した。集会では、主催者を代表して飛鳥田社会党委員長が挨拶。つづいて総評の榎枝議長、キリスト教政治連盟の伊藤義清氏、平民会議の日高六郎氏などが決意表明した後、「軍国主義反対に共に立ち上がろう」との「八・一五集会アピール」が採択された。また、この集会に先立ち、はじめての戦争犠牲者追悼式典が千鳥ヶ淵の戦没者墓苑で開催され、飛鳥田社会党委員長、榎枝総評議長ら五団体代表を先頭に参列者一五〇〇人が献花をおこない、反戦の誓いを新たにした。

分裂した国際反戦デー

前年までかろうじて統一が保たれてきた一〇・二一国際反戦デーは、八一年に至ってついに分裂集会となった。前年の一〇・二一集会は、反安保全国実行委員会と安保破棄中央実行委員会の両実行委員会共催のかたちで開催されたが、定期大会において総評は、八二年の一〇・二一集会を、総評の主体性の中で中立労連、新産別の労働組合ナショナルセンターの主催とすることを決定した。これまでの主催形式の変更に反発した安保破棄中央実行委員会が、都内の会場を押さえ、話し合いを要求したが進展せず、結局、総評など三団体は一〇月二〇日に日をずらし、安保破棄中央実行委員会は一〇月二一日に、それぞれ独自に集会を開くこととなった。

総評・中立労連・新産別三団体主催の「安保条約廃棄、非核三原則堅持、全面軍縮、憲法改悪阻止、福祉切捨ての行革反対、国民生活防衛、アジアの平和確立、一九八一年国際反戦デー一〇・二〇中央集会」は、一〇月二〇日、明治公園で開催され、四万人が参加した。集会では、主催者を代表して富塚総評事務局長が開会挨拶をはじめたとたん、最前列にいた「労働情報」などの旗を掲げた一団が騒ぎ出し、豎山中立労連議長の議長団挨拶にたいしてもヤジと怒号がくり返された。主催者側は対応策を協議する一方で榎枝総評議長の挨拶の強行をはかったが、途中で労働戦線の統一反対を叫ぶ一部組合員が壇上に押し寄せたため、中断のやむなきに至り、集会は壇上での激しいもみあいと混乱の中、宣言を読みあげて閉幕した。

以上の事態にたいし、総評幹事会はずぎのような統一見解を発表した。

【総評幹事会の統一見解(部分)】

総評は一〇・二〇集会に対し、各政党、民主団体、青年、婦人等広汎に呼びかけ、多

くの民主団体が参加した。一〇・二〇中央集会とは別個に反戦集会を独自に開催することに対し、相互批判をしない方針で対応してきた。

しかし、一〇・二〇中央集会は「労働情報」を名のる一部のグループ集団の妨害によって、残念ながら集会を一時中断し、大きな混乱が発生したことは、いかなる理由、いかなる事情があろうとも、反戦・平和集会の妨害、破壊行動は断じて許すことはできない。特に「労働情報」を名のるグループは、多くの主催者団体傘下の組合員が参加している事実も明らかであり、全単産は組織的に厳しく、対応する必要がある。一〇・二〇中央集会を結果として妨害「演壇破壊」をした「労働情報」を名のるグループに対し、総評は組織をあげて糾弾する。

他方、安保破棄諸要求貫徹中央実行委員会が主催する「安保条約廃棄、核兵器もちこみ糾弾、基地撤去、憲法改悪反対、臨調路線粉碎、国民生活擁護一〇・二一全国統一行動中央集会」は、一〇月二一日、明治公園で開催され、二万八〇〇〇人が参加した。集会では、主催者を代表して近藤一雄事務局長が挨拶。つづいて、宮本顕治共産党委員長が決意をのべ、統一労組懇、平和委員会など一七団体代表もつぎつぎと挨拶をおこなった。集会は、「われわれは、一〇・二一の革新的伝統をひきつぐこの中央集会を新たな跳躍台として、国会の内外で大きくたたかひをもりあげ、国民的な世論と行動をいっそう広範に結集するために、力をつくして奮闘することを宣言する」との「宣言」と、「ヨーロッパ諸国の平和集会へのメッセージ」を採択したのも、都内をデモ行進した。

なお、一〇月二一日には全国の道府県段階でも、集会やデモがとりくまれ、北海道、青森、秋田、岩手、宮城、福島、新潟、長野、埼玉、富山、石川、山梨、静岡、滋賀、島根、愛媛、高知、香川、福岡、熊本、佐賀、大分、長崎の二三道県や地区段階で、社会党、共産党、県評、民主団体が共闘して統一集会が開催された。

下町反戦集会

一夜のうちに一〇万人という広島、長崎に匹敵する人命が奪われた東京大空襲から三七年後の八二年三月八日、東京・浅草の国際劇場で、「再び許さぬ大空襲、下町反戦・平和の集い」が開かれ、五〇〇〇人が参加した。この集会は、作家の早乙女勝元氏、東京空襲を記録する会の橋本代志子さん、東部ブロック地区労共闘の小林基悦議長を代表よびかけ人として実行委員会が発足。江戸川地区労を事務局に、下町七地区労の協力などによって被災状況アンケート活動などにとりくむ中で、一〇八人のよびかけ人、九〇余人の賛同人を得て開催された。集会には、荒川少年少女合唱団や日本フィルも参加。空襲体験者の貴重な証言も語られた。集会は最後に、戦没者に黙とうをささげ、「下町から戦争反対、平和の行動を」「反核軍縮三〇〇〇万署名の成功を」などのアピールを採択して閉会した。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

